

GREEN RADAR

平成29年度 事業計画骨子

重点事業方針 A-Policy

- ・平成28年度 生産販売部 きのこと事業計画の進展状況
- ・平成28年度 生産販売部営業課 事業計画の進捗状況
- ・青果物通いコンテナの安定供給と利用料低減のため、コンテナの回収率向上に努めています（包装資材課）
- ・生産コストの低減に向けた農業事業の取り組み（生産資材課）
- ・農業機械『県域推奨型式』設定による重点購買の取り組み（農業機械課）
- ・JAと連携した提案型施主代行の推進と組合員の土地活用支援・住環境関連事業への取り組み（施設住宅課）
- ・JA信州うえだで㈱エディオンとの提携による家電事業開始

Vol.454

MARCH 2017

3



信州フラワーショーで農林水産大臣賞を受賞したアルストロメリア「ピンクティアラ」



第34回全農日本カーリング選手権大会で県産農畜産物をPR



長野灯明まつりでできのこ汁の振る舞い



ながの銀嶺国体スキー会場で「信州の牛乳」をPR



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

平成29年度 事業計画骨子

I JA全農長野基本理念

会員JAとの一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、JA組合員の営農と生活の向上に貢献します。

II 基本方針

1. 国内農業を取り巻く環境は、農畜産物の輸入増加、国内需要減少

4. 事業管理費

業務の効率化により事業管理費の圧縮に努めます。

5. 機構・要員

JA・子会社との一体的な事業運営・農業生産基盤強化・販売力強化等の確実な実践に向け、JA・子会社との人事交流の実施および効率的な事業体制と機能発揮に向けた機構・要員配置とします。

6. 施設投資・システム開発・外部出資

財務の健全性を基本に置き、事業の将来展望・戦略性および必要性・費用対効果・緊急性を十分検討し、投資回収基準（3年単黒・5年累積解消・10年投資回収）に沿ってすすめます。

IV 事業方針

1. JA長野県営農業事業

(1)平成30年の米政策転換を踏まえ、水田における園芸品目による複合経営を提案するとともに、JA農業振興ビジョンの樹立・実践をすすめます。

(2)農業所得の増大に向け、多収穫・省力栽培などの開発・研究、商品

に加え、生産者高齢化や耕作放棄地の増加等による生産基盤縮小傾向が続いており、生産力の向上、販売価格の確保および生産コストの低減等をあわせた農業所得の増大が課題となっています。

また、平成30年産米からの米政策転換に対応して、JAグループとしての生産・集荷・販売の一貫した米穀事業の構築と生産農家の経営安定を早急にすすめる必要があります。

2. TPPは国会承認がされたものの、米国新政権のTPP離脱表明により、発効の見通しは立たなくなりました。一方で、米国からのFTA要求の懸念や日欧EPAにおける交渉の推移等、今後の動向に予断を許さない状況が続いています。

政府は、昨年11月に「農業競争力強化プログラム」を反映した「農林水産業・地域の活力創造プラン」を改訂しました。同プログラムは13項目から構成され、全農の生産資材の買い方および農産物の売り方の見直しを求め、与党・政府は改革の進捗状況について定期的なフォローアップを行なうとしています。

化率の高い品目・品種の選定と普及を行い、生産者の収益性向上をすすめます。

(3)中心的な担い手に対しては、JA・地域に応じた出向く体制を構築し、事業反映と施策提案を行うとともに、新規就農者も含めた多様な担い手の育成をすすめます。

(4)営農技術員サポートセンターによる営農技術員向けの農業経営管理研修、ボトムアップ研修等を開催し、営農技術員の現場対応力の向上をはかります。

(5)「JA長野県営農指導者会議」専門部4ブロック毎の現地検討会・研修会等により技術・販売・資材情報の共有化を行い、相互研鑽と推進力の強化をはかります。

(6)東京オリンピック・パラリンピックの食料調達方針を見据えた「GAP手法（農業生産工程管理）」について研究をすすめ、安全・安心システムの普及拡大と信州農畜産物の生産・供給体制の向上をすすめます。

2. 生産販売事業

(1)販売と連動した計画生産や、適地適作に基づいた商品提案のため、

ます。

3. このような情勢のもと長野県本部は、「中期事業ビジョン（平成28～30年度）」に連動する中期事業計画（平成28～30年度）の取り組みを更に強化するとともに、JA自己改革を加速化させ、JA・県域および子会社の効率的一体的事業運営体制により、農業所得の増大および地域の活性化をすすめます。

なお、「農業競争力強化プログラム」に関しては、長野県に相応しい取り組みのあり方を、県内の組織協議をふまえ具体化をはかります。

4. 更に、県本部グループのガバナンス体制・コンプライアンス態勢の再構築、県本部総合経営管理制の堅持により、部門別事業競争力強化と経営基盤の確立をはかり、県域結集の拡大と結集成果を反映したJA・組合員へのメリット還元に努めます。

【事業運営の基本目標】

1. 長野県農業生産基盤強化と信州ブランドの確立

2. 営業力強化による顧客確保と仕

良質な種苗等の供給、多収穫・省力栽培の導入、施設化推進等により生産基盤の維持・拡大をすすめます。

(2)多様な生産者への状況に応じた生産・販売企画提案や、新たな生産・販売体制の構築により系統集荷の向上をはかります。

(3)営業活動の強化、多様な販売手法への取組、生産販売担当者の資質向上等により販売力の強化をすすめ、農業所得の増大をはかります。

(4)総合品目宣伝の強化により、「信州三ツ山マーク」、「長野米」、「信州力」の認知度向上をはかり信州農産物のブランド化を一層すすめます。

(5)平成30年の米政策の転換を見据え、系統結集強化ならびに長野米商品力向上・営業強化により長野米需要の維持拡大をはかり、農業所得増大に取り組みます。

3. 生産購買事業

(1)生産購買事業は、系統結集による仕入機能の強化、メリットの価格折込による資材価格の見える化、農家組合員の農業所得向上に向けたトータルコスト削減と大規模経

入強化および生産流通コスト削減による生産者手取り最大化

3. JA・県域・子会社の一体化による営農・経済事業の競争力強化と経営収支の確立

【経営管理の基本】

経営管理体制の高度化と県本部総合経営管理制の堅持

III 経営方針

1. 総供給販売高計画

平成29年度	2, 721億円
生産販売部	1, 596億円
生産購買部	362億円
畜産酪農部	319億円
生活部	444億円

※総供給販売高には内部販売を含みます。

2. 税引前当期利益

3億6千万円（税引後2億円）とします。

3. 奨励施策

施策の選択と集中をはかり、事業基盤の確立と担い手総合支援対策に資する重点的・効率的な事業奨励とします。

営農家・法人など担い手への対応力強化に取り組みます。

(2)包装資材事業は、販売部署との連携強化による生産者・実需者ニーズへの提案を積極的にすすめるとともに、規格の簡素化と計画的製造・納品による価格メリット創出ならびに安定供給に取り組みます。

(3)生産資材事業は、予約率向上対策をすすめ、競争力ある資材価格の実現と低コスト・省力型資材の計画的な普及に取り組みます。大規模経営体に対応した資材の提案推進と県域（又はメーカー）直行配送などにより、メリット拡大をすすめます。また、予約購買を補完する店舗購買体制の強化をはかるため、JA資材事業拠点体制の構築を支援します。

(4)農業機械事業は、県域推奨型式設定による重点購買、中古農機の流通促進、また、担い手・新規就農者を対象とした県域レンタル事業に取り組み、生産性の向上と農機コスト低減をはかります。協同経営は、重点購買と業務の標準化・合理化を一層すすめ、収支確立と組合員サービスの充実に努めます。

(5)施設住宅事業は、施主代行を事

業の基本とした提案型の事業推進を行い、一級建築士事務所による専門性を発揮した設計・工事監理業務を中心に取り組みます。また、農業施設の高度化・再編をすすめるとともに、組合員の土地活用支援と住環境改善事業に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

- (1) 素畜供給体制の強化、空舎の利用、中核農家への重点指導、畜産クラスター事業の有効活用により、畜産酪農生産基盤を拡大強化します。
- (2) 信州産畜産酪農品のブランド販売強化、飼料用米活用等による飼料コスト削減、生産性向上指導の強化により農業所得の増大をすすめます。
- (3) 各地域の畜産酪農営農センターを拡充し、JAと一体となった営農指導体制を強化します。
- (4) 県本部生産農場は素畜供給機能を拡充するとともに、経営体質を強化します。
- (5) 県内の食肉処理施設の再編について関係者と協議をすすめ、合意形成をはかります。

5. 生活事業

- (1) 燃料卸事業は数量を背景とした仕入強化と、供給元の出荷基地分散化による安定供給確保に取り組みます。石油事業はマスタープランに基づく拠点再配置等の実践と、石油事業改革の検討をすすめます。LPガス事業は保安の確保と、環境変化に対応したJA小売事業体制の構築をすすめます。
- (2) SS協同経営事業は、運営体制および競争力の強化により、収支改善に取り組みます。また、スタッフの育成および処遇の見直しにより、お客様視点に立ったサービスの提供をすすめるとともに、JAの総合力を活かした魅力ある事業展開をはかり、地域の組合員ならびに利用者に愛される店舗づくりに努めます。
- (3) 自動車事業は、営農車の県域結集のための検討をすすめるとともに、JAの自動車事業の専門株式会社化、または条件が整った上で(株)ジェイエイオート長野との事業統合を検討します。
- (4) 宅配事業は、利用者懇談会の設置等によりPRを強化し会員確保に努めるとともに、「おまかせコー

ス」のメニュー再編と「選択コース」の効率化等により、JAと連携しながら事業収支改善をはかります。物流事業は、(株)長野県A・コープと連携し現物流体制による商品供給を存続すると同時に、次期マスタープランに合わせ、地区別・事業別(店舗・共同購入・宅配)に、新たな物流体制の検討をすすめます。組織事業は、取扱品目の選択と集中をすすめ、事業強化をはかります。家庭薬事業は、「健康増進事業」としてJAと連携した普及推進体制の維持に努めます。

機能に見合う部門別収支の検証と見直しを行うとともに、事業管理費を精査し管理コスト節減に努め、経営の安定化をはかります。

- (3) 業務に係る法令研修や相談機能を充実させるとともに、一斉事業点検検証や内部業務点検を通じて、コンプライアンスの推進と重点管理すべきリスク(①現金管理、②棚卸管理、③食品表示、④労務管理、⑤法令違反、⑥労働災害防止、⑦情報管理)の未然防止をはかります。
- (4) 県本部総合経営管理体制を担う業務体制を維持するとともに、職員の能力開発・育成をはかり、JA・子会社との一体的事業遂行のための多様な雇用形態による要員体制を確立します。
- (5) JA長野県グループおよび行政機関等との連携を強化し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。
- (6) 子会社は、内部統制システムの整備、コンプライアンス態勢の一層の推進とJA経済事業補完機能の強化をすすめ、健全経営を基本とした経営管理を行います。

6. 経営管理

- (1) 県域結集と事業競争力の強化によるJA・組合員へのメリット還元を基本とする県本部総合経営管理体制を堅持します。
- (2) 事業環境の変化を踏まえ、県本部

きのこ課

平成28年度生産販売部 きのこ事業計画の進展状況

平成28年度の事業計画は、販売事業235・85億円、加工1・5億円、種菌培地5・65億円の合計243億円を目標に事業推進してまいりました。

■平成28年度を生産販売経過

近年のきのこ生産状況は、品種の多様な生産と、えのきたけ・ぶなしめじを中心とした企業や大型法人等の増産により、全国の流通量は増加傾向にあります。当県本部の取り組みとして、3月～8月までは「需要減退期の適正生産」を実施し、JA・部会等の理解もあり成果を上げてきています。平成28年は気温高と野菜の豊作基調による厳しい販売環境の中、実需者に対し優先的に販売企画を投げ、売場確保に努めました。しかしながら7月下旬から8月中旬は計画を大幅に上回る販売数量となり、価格を押し下げる要因となりました。需要期は、9月・10月と最低気温が例年になく高く推移し、きのこの販売点数が伸び悩む結果となりました。そのため、例年以上に売場を広

げる提案や消費宣伝会を実施し、荷動きの改善対応と加工・業務需要の拡大を図り、11月には価格浮上することができました。期待をした年末年始は12月中旬から気温高により量販店での動きが鈍く、計画した注文量が下振れをし、価格を引き下げる要因となりました。年明けもその影響を受け大変厳しい販売状況となっており、平成29年1月末販売実績では数量増の単価安で金額181・9億円(前年対比100%)で推移しています。残り僅かでありますが、年度末の実績確保に向けて最後の最後まで推進していきます。

■重点推進の進捗状況

1. 需要動向に沿った計画生産による生産者手取りの確保

再生産価格の確保に向け自らの経営を守るためにも適正生産を実施しています。特にえのきたけとぶなしめじについては県下一体となつて基本計画を基に計画出荷を進め

ましたが、27年度の夏場の単価高と冬場の安価により生産意欲が高く7月下旬から8月上旬まで過剰な生産となり課題が残りました。

今後とも価格安定と売場確保に努め、スムーズに秋季販売の立ち上げを進められるよう、需要動向に見合った生産誘導を進めていきます。

2. 長野県きのこの売り場確保した有利販売

- (1) JAと連携し、多様なニーズに対応できるアイテム提案を行い更なる需要の創出に向け取り組みました。
- (2) 業務・加工向け原料は需要に見合った取引対応としてカットきのこの供給を計画的に拡大しました。
- (3) 情報発信では12月の早い段階から最需要期である年末年始の価格提示などを行うことで実需者からの信頼に繋げ、売場の活性化を図るように取り組みました。
- (4) 消費宣伝会では、季節を先取りしたレシピ提案により売場確保を図り、また食品メーカーとのタイアップなど目先を変えた食べ方を提案しました。本県主力野菜と組み合わせたメニューにより売場確保と販売点数アップなどの効果が得られま

した。

- (5) 企画投入により売場の確保・拡大が得られた一方で、年間を通じ販売価格のアップには至らず再生産価格を下回る厳しい販売経過で推移しています。

3. 安全安心対策

安全・安心対策としては、商品回収をする重大事故案件により秋以降はJAの農家巡回指導と併せて当県本部職員も一緒に照明器具点検の調査および衛生面の農家指導を実施しました。顧客取引へ支障を及ぼすような課題も発生しています。今後は、更なる強化対策が求められており、29年度も継続して農家への直接指導を行っていきます。



11月11日「長野県きのこの日」に銀座NAGANOで開催したきのこPRイベント

営業課

平成28年度生産販売部営業課 事業計画の進捗状況

■平成28年度事業概要

平成28年度事業は供給高計画145億円を目標に、果実、野菜、きのこ、花きの各品目で事業推進して参りました。

特に重点実需者（生協、量販店、加工・業務顧客等）との連携を強化し、本県産青果物・花きの売場確保と信州ブランドでの総合宣伝および実需者開拓に努めました。

果実は夏果実の作柄前進化やりんごの収量減、総体的な相場高のなか、定番商品の継続と同時に裾野を拡げるべく新企画に取り組みました。

野菜は終盤の相場高騰期を除き、契約取引が比較的順調に推移をしました。加工・業務用途を拡充させ、生産者と実需者ニーズに応える業務展開を図りました。きのこは実需者への事前企画提案を徹底し、数量ベースでの拡販に努め、最需期である12月の単月販売金額は577百万円（前年比122%）となりました。

花きは冬場のアルストロメリアの収量減を新規品目の提案にて補いました。

このような販売経過の結果、3月末見通しは計画対比98%の約143億円の見込みとなりました。計画未達の見直しではあるものの、各品目で契約取引に対する産地側の期待の高まりが実感できる販売経過でした。

■平成28年度重点取組み事項

1. 顧客確保につながる積極的営業展開
各品目の特性に応じ、顧客確保につながるよう、営業活動を強化し取扱量の拡大を図りました。
- (1) 量販店対応
重点取引先を拡大し、通常の取引の円滑化を図ったほか、イベント等の販売協力にも積極的に取組み信頼関係の強化による安定的な取引を行いました。
特に地域密着型量販店や近年都市部において出店ラッシュが
2. 長野県農産物の高付加価値化推進
(1) 新品目の提案推進
営業課を基点とした生産振興品目として、カラフルミニトマト、紫ハクサイなどの新品目を顧客に提案し取扱量の拡大を図
- (2) 加工・業務用顧客対応
加工・業務用顧客が重視する「安定供給」を図るため、産地との調整を重ね、比較的順調な推移をしました。品目によっては供給が困難になる局面もありましたが、概ね顧客からは満足いただける対応ができました。
- (3) 商品提案の充実・強化
顧客が求める規格・形態での商品作りのほか、セット商品や大容量規格商品などの提案力を充実させ、顧客の売上げ向上に貢献しました。



イベント販売協力（株）オークワ様トラックセール

りました。

3. 事業所と連携した産地営業推進（生産振興）

(1) 事業所生産振興担当者として一体となった産地推進の実行
前述のカラフルミニトマト、紫ハクサイなどの新品目のほか多くの品目で事業所生産振興担当者と産地営業推進を行いました。

業務用キャベツでは既存産地の一層の強化を図りつつ、新規産地の開拓を進めました。また、機械収穫の実用化に向け、事業所のほか、JA長野県営農センターおよび野菜花き課とともに検証を行いました。

生産購買部 包装資材課

青果物通いコンテナの安定供給と利用料低減 のため、コンテナの回収率向上に努めています

青果物流通の出荷包装容器としては、段ボール箱の利用が一般的です。しかし、近年、小売店や加工業者他では、利便性の観点から、ヨーロッパで広く流通しているリターンブルコンテナシステム（通称「通いコンテナ」）での取引を求める要望が増えてきました。

長野県でも、野菜や果樹の出荷を中心に利用され、年間300万レンタルの実績があり全国トップクラスの利用率となっています。

包装資材課では、「通いコンテナ」の安定供給ならびに利用料低減にむけ、コンテナ回収率の向上に努めています。

■通いコンテナの仕組み

通いコンテナはレンタル事業であり、その仕組みは、①レンタル会社がJAへコンテナを貸し出す ②JAはコンテナで荷造られた青果物を市場や実需者に出荷する ③レンタル会社は、出荷先から使用後のコンテナを回収し洗浄する ④レンタル会社は、再びJAへコンテナを貸し出す、という流れになっています。

■通いコンテナの利用ルール

通いコンテナの利用にあたっては、

① 事前に取り決めた卸売市場や実需者に出荷すること ② 青果物の出荷容器以外に利用しない（店頭での陳列什器として利用しない）、などのルールがあります。

このルールが徹底されないと、出荷先から速やかに回収されずコンテナの紛失（流出）が生じてしまい製品補充の費用が高んだり供給不安となることが懸念されます。それを避けるためには、通いコンテナの回収率を向上させていくことが必要となります。

◆通いコンテナ回収率向上に向けて
コンテナ回収率を向上するうえで重要な点は、コンテナの流通実態（出荷先・数量・期間）を把握することです。

そのために、① シーズン前にJA毎に月別使用数量計画を作成する ② シーズン中は出荷先別に出荷実績を管理する ③ シーズン終了後は、保管場所毎に実地棚卸を行なう、という業務を行っています

JAと連携したこうした取組みにより、年々回収率は改善されており、本年度は95%を超えるまでになりました。



収穫したレタスを入れた「通いコンテナ」

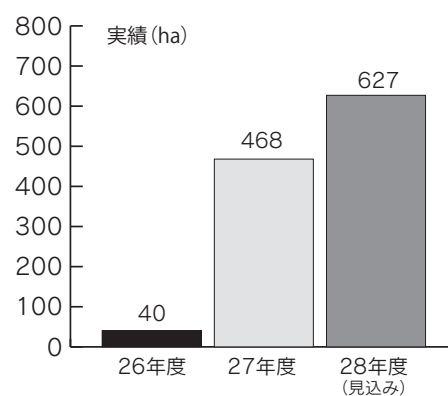
生産購買部
生産資材課

生産コストの低減に向けた 農薬事業の取り組み

生産資材課では、生産コストの低減として農薬配送コストの合理化に着眼し、メーカー倉庫および県本部物流基地から生産者への直配送について取り組みを進めています。そこで、それぞれの取り組み内容と今後の進め方についてご紹介します。

1. 「担い手直送規格」品目の拡大

平成26年度より取り扱いを開始した「水稻用除草剤 サラブレットK A-1 1キロ粒剤 50kg規格(5ha)」をはじめとした担い手向け超大型規格農薬は、新たな配送形態として、メーカー倉庫から生産者宅(倉庫)への直送方式を採用しています。この方式は、価格メリットの創出など現場のニーズに沿った取り組みとして受け入れられ、品目・数量(面積)は年々拡大し、平成28年度(平成28年4月～平成29年3月)は栽培面積換算で627haの取り扱い見込みとなりました。



平成29年度は新たに水稻用除草剤3品目「エーワン1キロ粒剤 50kg規格(5ha)」「ガンガン1キロ粒剤 50kg規格(5ha)」「トップガンGT 511キロ粒剤 50kg規格(5ha)」を加え、水稻育苗箱処理剤2品目を含む全9品目により取り組みを進めます。ラインナップを拡大することで、農薬価格の低減と同時に、課題となっている雑草に適した除草剤を選択することが一層可能となります。今後も更なるラインナップの拡大を予定しています。

2. 農薬農家直行方式の拡充

農薬購入金額が一定額以上の水稻生産者を対象として、県本部物流基地から生産者宅(倉庫)への農薬直送を平成28年度より開始しました。

従来、農薬の戸配送はJ A倉庫経由の物流が主体でしたが、この事業では県本部物流基地から生産者への直配送による物流コスト削減メリットについてJ Aを通じて生産者価格に還元し、生産コスト低減に寄与す

ることを目的としています。

平成28年度は5 J A 40戸の生産者にこの事業を活用していただきました。平成29年度からは果樹生産者も対象に加えて取り組みを強化します。



デルタアタック



トップガンGT
1キロ粒剤
50kg



ナギナタ
豆つぶ



コメット顆粒



サラブレット KAI

生産購買部
農業機械課

農業機械『県域推奨型式』設定による 重点購買の取り組み

農業機械課では、平成28年度中期計画に基づく重点購買の取り組みとして、県域推奨型式を設定しました。機種・型式の選定においては、農業機械専門部会内にJ A 農機担当者を構成メンバーとする県域推奨型式研究委員会を設け、検討を重ね、トラクター1型式を選定しました。

これを「J A 長野県推奨型式トラクター」として、5月上旬からの供給を予定しています。

選定したトラクターは、県内で安定した需要がある排気量20馬力エンジンを搭載した、井関農機(株)の新型トラクター「レスパ」(RTS20SA4D)です。

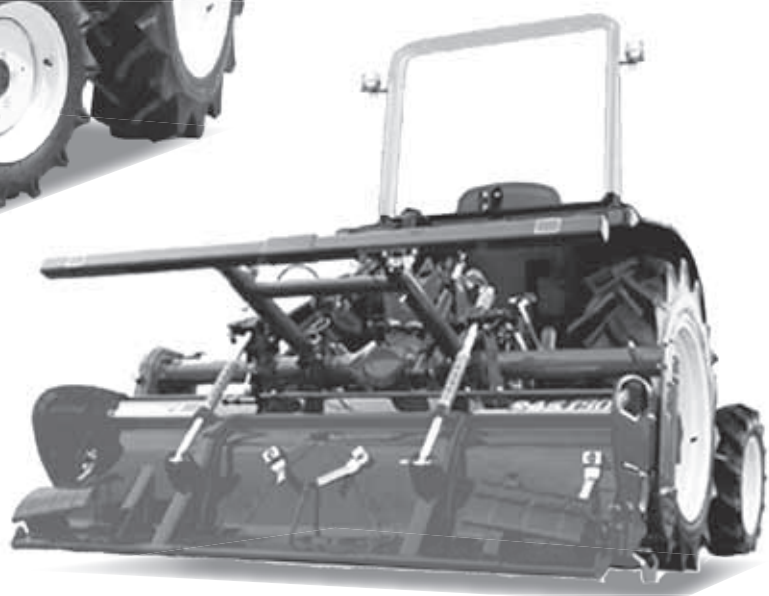
今後、推奨型式トラクターへの需要結集を進め、購買メリットの拡大

を図ります。

既に5月上旬からの供給に向けて、県下J Aでの受注が始まっていますので、トラクターの購入を計画されている方は、お近くのJ A 農業機械センターまでお問い合わせください。

今後、トラクター以外の機種についても県域推奨型式の設定を進め、型式集約による購買機能の強化を図ってまいります。

JA長野県推奨型式トラクター
「レスパ」(RTS20SA4D)



生産購買部
施設住宅課

J Aと連携した提案型施主代行の推進と組合員の土地活用支援・住環境関連事業への取り組み

施設住宅課では、施主代りを基本とした提案型の事業を行い、一級建築士事務所による専門性を発揮した設計・工事監理業務を中心に取り組みをしています。また、農業施設の高度化・再編を進めるとともに、J Aと一体となり組合員の土地活用支援とリフォーム・シロアリ事業等の住環境改善事業にも取り組んでいます。

2. 組合員の土地活用支援と住環境関連事業への取り組み

J Aとの一体事業として、組合員の土地活用の検討・提案支援を行っています。また、高齢化に配慮したリフォーム（簡易から大型リフォームまで）や、建物保全に係るシロアリ防除等の住宅事業にも取り組んでいます。

3. 設計事務所としての機能発揮

施設住宅課では12名の建築士を配置しています。3DCADも導入しており、事務所等の一般建築から、医療福祉施設・葬祭施設・店舗施設等、多岐にわたる分野の建築物の設計・施工管理を行います。また、建物の耐震化や省エネ化への改修提案にも取り組んでいます。

1. J Aと連携した提案型施主代行による設計・施工管理

J A固定資産部署と連携したコンサルタント機能を発揮し、J A固定資産取得計画に対する相談業務を行い、建設計画をご提案します。また、農業施設のノウハウを発揮した施設改善提案や米穀施設・集出荷施設の高度化、効率化再編を提案します。



JA松本ハイランド本所



JAあづみ 虹のホールあずさがわ



JA佐久浅間 小規模多機能ホームあさしな



JA上伊那 南箕輪カントリーエレベーター



A・COOPファーマーズ南長野店

生活課

J A信州うえだで(株)エディオンとの提携による家電事業開始

全農長野県本部生活課では、大手家電量販店(株)エディオン法人事業部との提携による家電製品の取扱いを各J Aに提案しました。

家電製品は組合員の生活に欠かせない商品であり、系統生活事業においても長期にわたり取り扱いをしてきましたが、家電量販店の出店やネット・通信販売等の躍進等による競争激化にともない大幅に減少しているのが実態です。

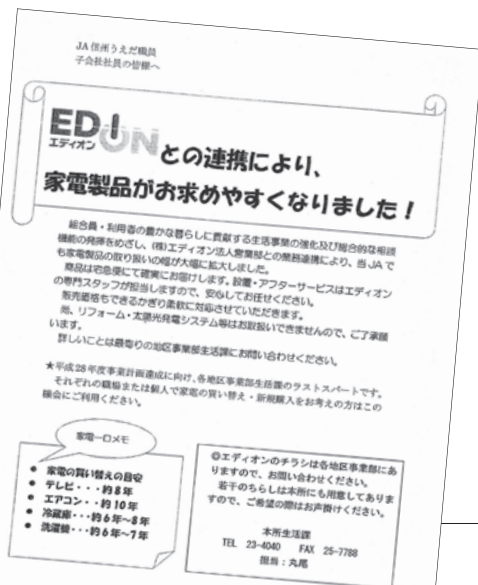
こうした中、平成28年11月下旬より、J A信州うえだ生活部が取り扱いを開始しました。

取組方法は毎月(株)エディオン法人営業部で発行するチラシを活用し、組合員に商品提案を行ないます。組合員から受注した商品は、(株)エディオンが組合員のご自宅まで配送し設置も行います。設置・取り付けを行わない商品は宅配便で配送します。この取り組みのメリットとして、①量販店の店頭価格で幅広いアイデ

ムから商品が購入できる ②配送、設置も全てエディオン担当者が行う ③今までにJ Aで販売した家電製品の修理が全て(株)エディオンで可能（家電リサイクル等の手続きも実施） ④家電製品は次々と新製品が発売されるため、展示品等は仕入れ価格以下で処分しなければならない場合もありますが、J Aは在庫を持つ必要がないためこうした商品ロスがない、ということが挙げられます。

取り扱いを始めたばかりであり、重点的に取り組んでいる支所が2支所ほどであるため、平成29年1月末時点では、取扱件数は約30件・取扱金額は約1,000千円となっています。J A信州うえだは、今後も高齢な組合員のライフライン確保という意味合いも含め取り組み強化を図っていく計画です。J A信州うえだの山崎元雄生活部長は「J Aの家電製品については、今までご利用いただいたお客様のアフターサービス

等を考慮し、機種を限定した推進を行ってきましたが、今回の業務提携により、幅広い銘柄や機種をお客様にご案内することができ、修理等のアフターサービス面も含め、選択肢が増えたことでJ A家電事業の新たな展開を期待しています」との事です。同J Aの丸尾信夫生活課長は「地上デジタルテレビの推進以降、家電製品については低迷の一途をたどっていました。(株)エディオンとの提携により価格面、アフターサービス等利便性の向上が大幅に図られ、組合員・利用者にもタイムリーなサービスが提供できる道が開けました。今後はエアコンの据付や冷蔵庫の設置も多く見込まれる時期となるため、(株)エディオンとの連携強化をしながら進めたい。また毎月専用チラシを配布することにより、高齢者を中心に積極的な推進を展開していきたい」としています。



農林水産大臣賞はJA上伊那の有賀美和さんがアルストロメリアが受賞

「第48回信州フラワーショー・ウィンターセクション」開催

全農長野県本部とJA全農長野花き専門委員会は2月2日(木)・3日(金)、JA南信会館(伊那市)で「第48回 信州フラワーショー・ウィンターセクション」を開催しました。

近年は気象変動が大きく、栽培管理にも苦労が多い中、生産者・関係者の努力により昨年並みの410点(昨年417点)が出品。審査され、JA上伊那の有賀美和さんのアルストロメリア「ピンクティアラ」が最高賞の

農林水産大臣賞を受賞しました。出品数の6割をアルストロメリアが占め、全体的なレベルも高く、その中でも有賀さんのアルストロメリアは花の発色が良く、草姿のバランスも良いと評価されました。

今回は長野県が日本一の生産量であるアネモネやタリヤの出品数も多く、花木類ではレンギョウ、サクラの出品もあり、県内では高品質で多彩な切り花や花木類が栽培されていること



を来場者に知っていただく良い機会となりました。信州フラワーショーは、「生産者の栽培技術を競い、技術の向上と本県花き産業の振興を図る」ことを目的に毎年夏と冬に開催しています。今後も長野県産花き類の生産振興と生産技術の向上、消費拡大につながる取り組みを進めます。

▼野菜花き課

花に親しんでもらおうと小学生を対象にアレンジメント教室も開いた

第48回信州フラワーショー ウィンターセクション入賞者

賞		品目名	品種名	受賞者	JA名
農林水産大臣賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	有賀 美和	JA上伊那	
	アルストロメリア	ゴールド	中原 睦男	JA上伊那	
農林水産省生産局長賞	アルストロメリア	エレガンス	宮下 敦	JA上伊那	
農林水産省生産局長賞	アルストロメリア	白蝶	丸田 旭雄	JA上伊那	
全国農業協同組合連合会長賞	ダリア	ミストラルブラス	上原 亮一	JA信州諏訪	
長野県知事賞	アルストロメリア	オリジナル	酒井 弘道	JA上伊那	
日本花き卸売市場協会賞	アルストロメリア	パール	山崎 正人	JA上伊那	
フラワー産業議員連盟会長賞	アルストロメリア	ミストラルブラス	平出 千里	JA信州諏訪	
長野県農業協同組合中央会長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	古畑 雅一	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクサブライズ	矢野 源彦	JA上伊那	
全国農業協同組合連合会長賞	アルストロメリア	ハートソフィア	伊藤 哲	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	西尾 裕幸	JA上伊那	
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	市川 征一郎	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	大正 寿孝	JA上伊那	
全国農業協同組合連合会長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	赤羽 今男	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	南白鳥園芸	JA上伊那	
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	萩原 宏之	JA信州うへだ	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	柴田 千代子	JA上伊那	
フラワーショー運営委員長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	松島 圭子	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	柳澤 功太郎	JA信州諏訪	
アルストロメリア	アルストロメリア	ブルーカイ	吉澤 栄二	JA上伊那	
	アルストロメリア	ブルーカイ	永井 智	JA上伊那	
アルストロメリア	アルストロメリア	ピンクティアラ	依田 政志	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	小笠原秀樹	JA上伊那	
アルストロメリア	アルストロメリア	ピンクティアラ	飯島 守	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	中村 広子	JA上伊那	
アルストロメリア	アルストロメリア	ピンクティアラ	篠原 万郎	JA信州諏訪	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	阿部 長衛	JA信州諏訪	
アルストロメリア	アルストロメリア	ピンクティアラ	小林 俊一郎	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	佐々木敏正	JA上伊那	
アルストロメリア	アルストロメリア	ピンクティアラ	南入江花井	JA上伊那	
	アルストロメリア	ピンクティアラ	小田中浩幸	JA上伊那	

選手と観客に県産農畜産物を贈呈、振る舞い

「第34回全農日本カーリング選手権大会」でPR

JA全農と全農長野県本部は、1月29日(日)から2月5日(日)まで軽井沢町で開催された「第34回全農日本カーリング選手権大会」で、県産農畜産物を贈呈しました。

29日の記者会見の中で、参加した男女各9チームの代表として、昨年優勝したSC軽井沢クラブの両角友佑選手とLS北見の藤澤五月選手に当県本部の小林哲男副部長が市田柿とコシヒカリを手渡し、選手たちは会場に用意された市田柿とおむすびを昼食時に味わいました。4日と5日には、来場者におむすび、市田柿、信州ポーク入りのこ汁(5日はきのこのこと信州ポークのスープカレー)を振る舞い、県産農畜産物のおいしさをPRしました。来場者は、「市田柿は名前を知っているが初めて食べました。和菓子のようでおいしい」「スープカレーはきのこの歯応えがあつておいしかった」と言い、おかわりする人もいました。

優勝したSC軽井沢クラブと中部電力には副賞として、県産コシヒカリ1トン、MVP賞の両角友佑選手と村松千秋選手には信州プレミアム牛肉、信州ポーク、きのこセットを贈呈しました。



会場内に展示した県産農畜産物



おむすびときのこ汁を受け取る来場者

地元産きのこの味を毎日1,000人にPR

「長野灯明まつり」で「灯明なべ」の振る舞い

全農長野県本部きのこ課はJAながの、JAグリーン長野と連携し、2月11日(土)・19日(日)に長野市の善光寺周辺で開催された「長野灯明まつり」で「灯明なべ(きのこ汁)」を振る舞いました。2月12日(日)と18日(土)に各日1,000食を振る舞い、地元産きのこの味をPRしました。



JAながのと連携した振る舞い(2/12)



JAグリーン長野と連携した振る舞い(2/18)

ながの銀嶺国体スキー会場で「信州の牛乳」をPR

JA長野県農産物PR協議会（事務局／全農長野県本部生産販売企画課）と「おいしい信州ふーど（風土）」を食べよう！育てよう！地産地消キャンペーン推進委員会（事務局／長野県農政部農産物マーケティング室）は、2月14日（火）に白馬村で行われた、ながの銀嶺国体スキー競技会開始式で県産牛乳を使ったココアを選手や関係者に振る舞いました。「今日はバレンタインデーなのでココアを振る舞っています」「冬の牛乳は乳脂肪分が多くておいしいですよ」と声を掛けると、来場者は「準備に忙しくてバレンタイン



ココアを使って信州の牛乳をPR



ココアを受け取る県内外の選手と関係者

デーを忘れていた」「久しぶりに牛乳を飲みました。体が温まりますね」と言いながら味わっていました。県内はもちろん全国から集まった皆さんに「信州の牛乳」のおいしさをPRする良い機会となりました。

3月の動き

企画課	3/13(月)、16(木)	子会社臨時株主総会・取締役会 JA長野県ビル、JA中信会館
総務広報課	3/2(木)	地区別総代会議（関東・甲信越） 東京都内
	3/28(火)	会員会議 JA長野県ビル
人事課	3/31(金)	定年退職者辞令交付式 JA長野県ビル
	4/3(月)	新採用職員入会式 JA長野県ビル
生産販売部	3/4(土)	しあわせ信州健康セミナー 第13回（食の体験の部） 銀座NAGANO 長野興農協と共同し、浜このみ先生による長野県産のトマトジュースを使ったイタリアンランチを提供します
生産販売企画課 JA長野県農産物PR協議会	3/11(土)、12(日)	ふるさとのお食にっぽんの食 全国フェスティバル NHK放送センター、代々木公園（東京・渋谷） 信州産さのこたつ豚汁のチャリティー配布とりんご、きのこ、加工品を販売します
生産販売部	3/25(土)	SBC子どもフェスタ 長野市生涯学習センター お米クイズ、きのこミニ講座（もぎ取り体験付き）、搾乳体験器で乳搾り体験など、食に関する体験イベントを行います

JA全農長野の事業現況

平成28年度1月末部門別実績表

(単位:百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	13,619	100	97
果	実	35,056	103	99
野菜	花き	68,505	109	95
野菜種苗	センター	175	105	99
きのこ		18,392	93	100
営業		13,181	100	101
生産販売部計		148,928	104	97
包装資材		7,672	95	98
生産資材		9,868	91	87
農業機械		6,115	106	102
施設住宅		5,245	132	128
生産購買部計		28,901	101	99
畜産		11,870	123	108
三岳牧場		255	112	100
SPF繁殖センター		231	99	103
酪農		16,304	108	105
ハケ岳牧場		264	100	116
畜産酪農部計		28,924	114	106
燃料・ホームエネルギー		19,010	98	95
SS協同経営		8,038	88	92
生活		10,920	101	99
生活部計		37,968	97	96
長野県本部計		244,721	103	98

(内部販売高含む)

3月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容（予定）
3/7(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	フードアナリスト中島麻希さんのおはなし
3/14(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	信州大学 能勢博教授の牛乳と健康のおはなし
3/21(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	乳和食レシピ紹介
3/28(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ

編集後記

早いもので、平成29年も3月を迎えます。寒さはまだまだ厳しいですが、そこそこ春の便りが聞こえています。ニュースを見ると、千葉県の南部では早々と「さくら祭り」も開催されたそうです。さくらは寒桜ですが、菜の花も一緒に咲いていて、空の青とピンク・黄色のコントラストがとてもきれいだとのこと。信州でも春を告げる花といわれる福寿草が咲きだしたとありました。開花の時期はほぼ例年どおりで、花が開いたのはまだ一部だが温かい日が続くにあつという間に咲き始めるそうです。この号が発刊されるころには、見ごろを迎えるのではないのでしょうか。

春の訪れと共に、新年度を迎えます。平成29年度はそれこそ「激動の一年」になると思われませんが、しっかりと地に足をつけて乗り切っていきたいと思っています。

明日の食と農を支えるチカラ募集します。

2018年度
新採用職員募集



応募方法など詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

<http://www.nn.zennoh.or.jp/>



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

お問い合わせ先

管理部門人事課
〒380-8614 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
TEL026-236-2160 E-mail nn-jinji@nn.zennoh.or.jp

小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート
小平奈緒 選手
所属:相澤病院(松本市)



長野県の美味しい作物は
みつやま
「三ツ山マーク」をつけて
出荷しています。

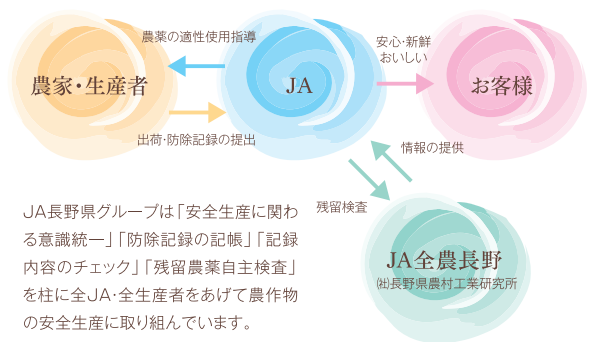
JA全農長野は、信頼される産地を目指し、
安心安全な農産物の供給に努めています。

産地産直で信州を食べよう!!



インターネット通販
JAタウン 僕はおいしい応援団

『安心・新鮮・おいしさ』を
お届けできるワケ



ながの★ゲンキ
みらい★ミカタ
JA全農長野



〒380-8614 長野県長野市大字南長野北石堂町1177番地3

信州力
JA全農長野農産物PRキャラクター



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

